

第6学年国語科学習指導案

日 時 平成27年10月 6日 (火) 6校時
児 童 男子 9名 女子16名 計25名
指導者 菅原 志保子

- 1 単元名 筆者のものの見方をとらえて、お気に入りの絵の解説文を書こう
教材名 『鳥獣戯画』を読む「この絵わたしはこう見る」(光村図書)
補助教材 「ひらめき美術館」(筆者 結城昌子, 発行所 小学館) 他

【付けたい力】

- ◎ 絵と文章との関係を押さえて筆者のものの見方や表現の工夫をとらえ自分の考えを明確にしながら読む力(読むこと ウ)
- ◎ 絵から読み取ったことを伝えるために、事実と感想、評価などを区別して書く力(書くこと ウ)

【単元を貫く言語活動】

《いわ小ギャラリーを6年の手で楽しいものに》
筆者のものの見方をとらえてお気に入りの絵の解説文を書く。

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「筆者のものの見方をとらえてお気に入りの絵の解説文を書く。」を位置付けた。この言語活動は、「読むこと」の言語活動例「イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること」を具体化したものである。

ここで取り上げる「筆者のものの見方をとらえてお気に入りの絵の解説文を書く。」は、自分が選んだ絵のすばらしさを全校のみんなに伝えるものである。筆者のものの見方や書き出し、文末表現、評価の言葉などの表現の工夫を生かして書く解説文である。筆者のものの見方をとらえてお気に入りの絵の解説文を書くためには、筆者が絵のどの部分を取り上げて何に注目しているか、筆者がものの見方を伝えるためどんな表現の工夫をしているか、感想や評価をどのような言葉で表現しているかとらえ自分の考えを明確にしながら教材文を読み、自分の解説文を書くときに生かすことが必要となる。

したがって、「筆者のものの見方をとらえてお気に入りの絵の解説文を書く。」は、本単元でねらう「事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」(読む ウ)「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」(書く ウ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えられる。

3 単元について

(1) 児童について

子どもたちは、これまでの説明的な文章の学習では、段落に着目したり、構成や要旨を読み取ったりする学習を積み重ねてきた。1学期に学習した説明的な文章では、「事実と感想、意見などとの関係」(読む ウ)に関しては、「具体の文と抽象の文を区別して読む」「事実の文と意

見の文を区別して読む」ことを学習し、「自分の考えを明確にしながらか読む」（読む ウ）に関しては、「自分の経験と結び付けて考える」学習をした。言語活動としては、筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、「自分が考える時間」というテーマで意見交流会をした。

筆者がどのような主張をしているのか、どのような事例を挙げて理由や根拠としているのかを学ぶことで、考えを伝えるための事例の重要性に気付くことができた。また、筆者の主張に対して自分が共感や納得する点を、自分の経験などと結び付けながら理由を述べてまとめようとする意識も高まってきた。

しかし、筆者がどのような意図で事例を挙げたのか、文章全体の構成のよさなどに気付けない児童や理解できていない児童もいる。また、他の教科において感想などを書く場面では、よさを伝えたり評価したりする言葉が不足しているため、自分の思いを十分表現できない実態がある。筆者の考えを読み手に伝える表現の工夫やその効果についての学習を丁寧に扱い、よさを伝える文章を書くときに活用させたい。

(2) 単元構成及び教材について

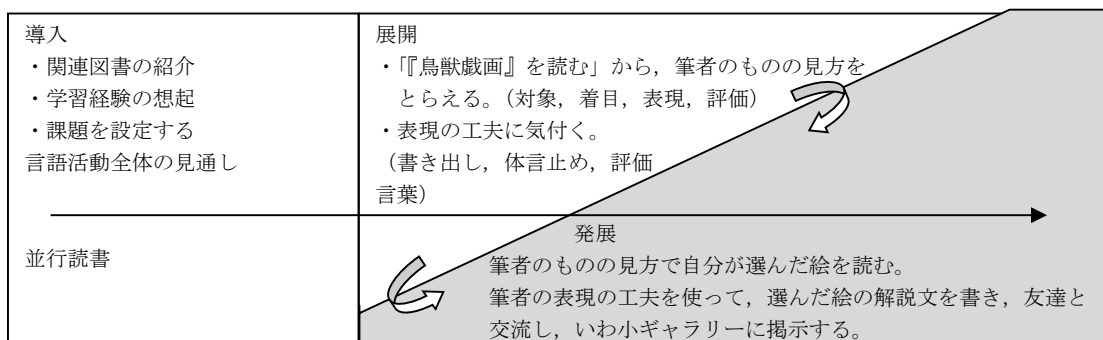
① 教材について

本教材『『鳥獣戯画』を読む』は、絵に対する解説部分と筆者の解説・評価が述べられた解説、論評的な特徴をもった説明的文章である。アニメーション映画の監督である筆者が、アニメや漫画の手法と比較しながら絵巻物の優れた表現などを述べているので、「筆者のものの見方」ととらえることに適している。筆者のものの見方とその対象が明確で、読み手が納得したり自分の見方と比較したりできるように絵と文章が配置されているので、絵と文章を照らし合わせて読むという読み方も身に付く教材である。さらに、体言止めの文末や語りかける口調、評価の言葉など、ものの見方を伝えるための筆者の工夫を学ぶことにも適している教材である。

関連図書として、名画を解説しながら紹介している図書を紹介し、子どもたちに解説文に触れさせたい。「この絵わたしはこう見る」では、「猿のいる熱帯の森 アンリ＝ルソー」が紹介されているが、自分が選んだ絵について解説文を書くにあたり、関連図書から絵を選んで自分なりの解説文を書いてもよいことにする。

〈関連図書〉 「ひらめき美術館」（著者 結城昌子、発行所 小学館）
「子どもアートシリーズ」（発行所 朝日学生新聞）

② 単元構成について



本単元では、お気に入りの絵の解説文を作成するために、絵と文章との関係を押さえて筆者のものの見方や表現の工夫をとらえ、自分の考えを明確にしながら読む力を付けさせたい。そこで、次のように単元を構成する。

第一次では、絵巻物とアニメーションを結びつけて絵巻物に関心をもたせた後、学習課題「筆者のものの見方をとらえて、お気に入りの絵の解説文を書こう」を設定し、学習の見通しをもたせる。

第二次では、解説文を書くために、教材文『鳥獣戯画』を読む』では、筆者が絵のどの部分を取り上げて何に着目しているか、筆者がものの見方を伝えるためどんな表現の工夫をしているか、感想や評価をどのような言葉で表現しているかをとらえ、それらに対して自分の考えをまとめながら読み進める。

第三次では、自分が選んだ絵について学習したことを生かして解説文を書く。出来上がった解説文は、いわ小ギャラリーに掲示し、全校のみんなに絵の鑑賞を楽しんでもらう。

(3) 指導にあたって

① 主体的な学習を展開するために

第一次では、子どもたちに馴染みのない絵巻物について紹介したり『鳥獣戯画』が「アニメの祖」と言われていることから漫画やアニメーションにふれたりすることで、教材を読むことへの関心を高めたい。さらに、1場面の絵の様子を説明する文章を書かせたあと筆者の文章と比較し、筆者の書き出しの面白さや臨場感のある表現の仕方に気付かせ、「ものの見方や表現の工夫をとらえながら読む」(付けたい力)ことに対しての意欲を高めたい。さらに、絵の解説モデル文を提示することで、自分のお気に入りの絵についての鑑賞文を書いて「いわ小ギャラリー」に掲示すること(言語活動)のイメージをもたせ、絵を解説することへの関心を高めたい。

② 確かな読みを保障するために

絵と文章を照らし合わせながら、筆者が絵巻物の「絵のどの部分」を取り上げ「何に着目して」「どう評価しているか」を読み取らせる。そのときに、絵に印を付けたり文と絵を線で結んだり、作品の事実を述べた部分と筆者の評価を述べた部分を色分けしたりしながら読み、その関係をとらえさせたい。また、板書にも絵とその解説部分をセットにして示したり、文章構成が明確になるように掲示をしたりしたい。特に、評価を表す言葉については、これからの学習に生かせるように書きためておきたい。また、書き出しの工夫、体言止めの文末、語りかける口調などの表現の工夫を見付けて、その効果を考えさせ、筆者のものの見方や考えと結び付けさせたい。教科書の『鳥獣戯画』から1枚の絵を選び、解説や評価を入れた文を書いて交流をしたあとに、自分が選んだ絵について解説文を書かせたい。

③ 交流を意欲的に進めるために

ペア、グループの交流を行うが、視点を明確にして進めたい。ペアの交流では、課題に

ついてペアで話し合い解決をすることを中心にする。友達と話し合うことで自分の考えに自信をもったり考えるヒントになったりすると考える。グループの交流では、交流の内容に応じてグループを作る。本単元の解説文の交流では、同じ絵を選んだ友達とグループを作り、自分と友達のものの見方の違いやよさに気付かせたい。発表を聞いたあとは相手に感想を伝えるようにする。次に、文章を見直ししてから、違う絵を選んだ友達同士のグループで交流することで、表現の工夫を深め合うことができると考える。

4 単元の目標

- 絵巻物や絵を解説することに興味をもち、文章を読んだり書いたりしようとする。
【関心・意欲・態度】
- ◎ 絵から読み取ったことを伝えるために、事実と感想、評価などを区別して簡単な解説の文章を書くことができる。
【書く ウ】
- ◎ 絵と文章との関係を押さえて筆者のもの見方や表現の工夫をとらえ自分の考えを明確にしながながら読むことができる。
【読む ウ】
- 文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句の関係を理解することができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	語句についての知識・理解・技能
・ 絵巻物や絵を解説することに興味をもち、筆者のもの見方や表現の工夫を生かして、自分なりに絵から読み取ったことを伝えようとしている。	・ 絵から読み取ったことを伝えるために、効果的な表現を入れて、事実と感想や評価を区別しながら書いている。(ウ)	・ 筆者が何をとり上げて、どこに着目して、どのように表現を工夫して評価を伝えているのかについて読み取っている。(ウ) ・ 筆者のもの見方を伝えるための表現の工夫と効果に対して自分の考えをもちながら読んでいる。(ウ)	・ 文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句の関係を理解している。(イ(オ))

6 単元の指導と評価計画 (全12時間)

次	時	学 習 活 動	評 価
第一 次	1	○ 「絵巻物」とはどのようなものかを知り、アニメーション的な要素があることを知る。 ○ 『鳥獣戯画』の「相撲の場面」を見て何を書こうとしたのかを想像して書き、交流する。	【関】 平安時代の絵巻物や絵を解説することに関心をもち、自分も解説をしようとしている。 〔ワークシート、発言〕
	2	○ 自分が書いた文と筆者の文と比較して違いに気付き、学習課題を確認する。 ○ 絵の解説文(モデル文)を見て単元名と学習計画を知り、今後の学習の見通しをもつ。 ○ 『鳥獣戯画』の全体像を見て気に入った場面を選ぶ。お気に入りの絵を選ぶ。	【関】 自分の解説と筆者の解説を比較し、もの見方や表現の工夫を学習すること、自分の選んだ絵について解説文を書くことを理解して学習の見通しをもとうとしている。 〔ワークシート、発言〕

第二次 (本時)	3	○ 『鳥獣戯画』を読む」の文章全体の構成をつかむ。	読 絵と絵巻物について書かれていることや筆者の主張に気づき、文章構成を理解している。〔ワークシート、発言〕
	4	○ 『鳥獣戯画』を読む」の2枚の絵と文章を照らし合わせながら読み、筆者が何を取り上げ、何に着目しているか、どのように評価しているかを見付け、筆者の見方をとらえる。 ○ 筆者の見方に対する自分の考えをまとめる。	読 筆者が何を取り上げ、何に着目しているか、どのように評価しているかを文と絵を結び付けながら読んでいる。〔ワークシート、発言〕 言 文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句の関係を理解している。〔発言〕
	5	○ 筆者が絵のよさを伝えるための表現の工夫(感想、評価の言葉、体言止め、書き出しなど)を見つけ、その効果についてとらえる。 ○ 筆者の絵に対する感じ方や表現の工夫について自分の考えをまとめる。	読 筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫と効果について考えながら読んでいる。〔ワークシート、発言〕 言 文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句の関係を理解している。〔発言〕
	6	○ 自分が選んだ『鳥獣戯画』の他の絵について、絵の説明と感想、評価を入れた解説文を筆者の表現の工夫を使って書く。	読 筆者のものの見方や表現の工夫を生かして、『鳥獣戯画』の他の絵について自分の考えをまとめている。〔ワークシート〕
	7	○ 解説文を読み合い、感想を伝え合う。 ○ 『鳥獣戯画』に対する筆者の主張についての考えをまとめる。	読 自分と友達の見方や考えを比べながら読み、感想を発表している。〔ワークシート、交流〕
第三次	8	○ 自分が選んだ絵の解説文を書くために、絵から読み取ったことや感じたことを付箋に書き出し、何を取り上げどこに着目したかを明確にする。	関 絵から読み取ったことを伝えようとしている。〔ワークシート〕
	9 10	○ 自分が選んだ絵について何をどの順番で書くか決めて、表現を工夫しながら解説文を書く。	書 絵から読み取ったことを伝えるために、効果的な表現を入れて書いている。〔ワークシート〕 言 文末表現や助詞の使い方などを理解している。〔ワークシート〕
	11 12	○ 完成した解説文を発表し合い、絵の見方や表現の仕方を交流する。	読 筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫のすばらしさに気づき、ものの見方を伝えるための工夫と効果について理解している。〔ワークシート、交流〕

7 本時の指導

(1) 目標

筆者が『鳥獣戯画』の感想や評価を伝えるためにどのような表現の工夫をしているか気づき、自分の考えをまとめることができる。

(2) 展開

段階	学習内容と活動 ◇発問 ・予想される児童の反応	○支援 ・留意事項 ☆評価
つかむ 5分	<p>1 前時の学習を想起する</p> <p>2 学習課題を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>筆者が絵のよさを伝えるためにどのような表現の工夫をしているかみつけ、自分の考えをまとめよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者は『鳥獣戯画』をすばらしい作品と評価し、読者に伝えようとしていることを確認する。 ・筆者の表現の工夫を自分が絵の解説文を書くときに生かすことを確認する。
ふかめる 33分	<p>3 筆者の感想や評価が表れている表現を見付ける。</p> <p>◇ 筆者が取り上げた部分をどのようによいて考えているのか筆者の感じたことや評価が表れている部分を見付けて線を引きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびのび、激しい気合いがこもっている、勢いがある、動きがある、絵が止まっていない、ほんのちょっとした筆さばき ・生き生きと躍動していて、まるで人間みたい人間くさい、漫画みたい ・気品、本物の生き物のまま、おかしくておもしろい ・見事、すごく上手、たいしたものだ、実にすばらしい ・思えない、ちがいない <p>4 筆者の表現の工夫と効果について考える。</p> <p>◇ 自分の解説文のときに生かしたい表現を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループで交流する。 ○ 全体で交流する。 <p>◇ それぞれの表現の工夫がどのような効果があるのか考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵と文を照らし合わせるができるように、絵とそれについて述べられている文をセットにして黒板に掲示する。 ・ 「おもしろい、上手、たいしたものだ」などの直接よさを伝える言葉、「のびのび、生き生き」のように筆者が絵から感じたことを表現した言葉、「思えない、ちがいない」などのような強い思いを表す文末表現に分類しながら板書する。 ・自分が生かしたい表現を選び、選んだ理由を交流させる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのび, まるで～みたい, 一どのように感じたのか伝わる 感じ方, 比喻 ・体言止め—強調される 文末表現の工夫 ・「思えない」—強調, 訴える <p>◇筆者の表現の工夫をどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文末の表現を工夫したので, 自分の思っていることを相手に強調して伝わると思う。 ・ 感じたことをいろいろな言葉を使って表しているので, 筆者の見方が伝わると思う。 	<p>☆筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫(感想, 評価の言葉)と効果について考えながら読んでいる。 [ワークシート, 交流]</p> <p>☆筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫について自分の考えをまとめることができる。 [ワークシート, 発表]</p>
<p>まとめる 7分</p>	<p>6 学習の振り返りをする</p> <p>◇ 筆者がどのような表現の工夫をしているかまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>文末表現(体言止めなど)などを工夫すると、絵のよさが伝わる。</p> </div> <p>◇ 今日の学習で分かったことや生かしたいことは何ですか。</p> <p>7 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉に学習したことを振り返りながらまとめる。 ・『鳥獣戯画』の他の絵についての解説文を筆者の表現の工夫をまねて書くことを伝える。

(3) 板書計画

文末表現(体言止めなど)などを工夫すると絵のよさが伝わる。

『鳥獣戯画』を読む 高畑 勲

筆者は、絵のよさを伝えるためにどのような表現の工夫をしているかみつけ、自分の考えをまとめよう。

④ 段落

P137の絵

⑦ 段落

⑥ 段落

⑤ 段落

③ 段落

② 段落

① 段落の文章

・のびのび ・どこか、おかしくて、おもしろい

・激しい気合いがこもっている ・ほんのちよつとした筆さばき

・勢いがあるが止まっていない。動きがある。 感じ方

・生き生きと躍動していて、まるで人間みたい 体言止め

・その気品。何から何まで本物の生き物のまま。 比喻

・思えない。 ・ちがいない。 言い切り

・すごく上手 感想

・たいしたものだ。・見事に 感想

・実にすばらしい